24　　敵さえも信頼する人物　 　　　　　　　　　　　　　　　　文法　反語形②

読解 人物の様子をつかむ

新傾向 関連資料との対応をつかむ

レ　　㆓　　㆒。魯　㆓ 　㆒ 。斉　人　、「鴈　。」魯　人　、「真　。」斉　、「①㆓　　　　　㆒。吾　　 。」魯　君、㋐請㆓ 楽　正　子　㆒。楽　正　子　春　、「② ㆘ ㆓ 　㆒ ㆖。」君　、「我　レ　。」㋑応　、「　亦　㆓　臣　之　㆒。」

* 語注

讒鼎＝三本足のついた器。大変貴重な宝物であった。

鴈＝ここでは、「偽」の意。

楽正子春＝魯の人で、孟子の弟子。

【原文】

斉　伐　魯　索　讒　鼎。 魯　以　其　鴈　往。斉　人　曰、「鴈　也。」 魯　人　曰、「真　也。」 斉　曰、「使　楽　正　子　春　 来。吾　将　聴　子。」魯　君、請　楽　正　子　春。楽　正　子　春　曰、「胡　不　以　其　真　往。」君　曰、「我　愛　之。」応　曰、「臣　亦　愛　臣　之　信。」

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の漢字を書き入れよ。

魯を討伐した斉は、魯に讒鼎を要求した。魯は偽の讒鼎を差し出した。讒鼎が本物かどうかを疑った〔　〕の人は、楽正子春を〔　〕させて確かめようとした。楽正子春は、〔　　〕から〔　〕の讒鼎だと言うように頼まれたが、断った。

問二　波線部㋐・㋑の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで答えよ。（現代仮名遣いでよい。〈４点×２〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　チェック問題　［反語形②］

次の文の現代語訳を、句形に注意して完成させよ。〈２点×４〉

１　　　水　之　　哉。（孟子）

これは　　　　　　　水の本性だろうか、いや本性ではない。

２　籍　　レ　　　　　　　㆓　　　　　　　　　　　　　於　㆒　　　　　　　　　　　　乎。　　（史記）

　　 籍はどうして良心に　　　　　　　　　　　　　　　　　　。

３　　　　　　　　　　　　　㆓　　　　　　　　　　　　　　大　将　㆒　。（続玄怪録・杜子春伝）

　 どうして大将軍を　　　　　　だろうか、いやきっと避ける。

４　　不㆓ 　大　丈　㆒　　　　　　　　　　　　　　哉。（孟子）

　　 　　　　　　　本当の優れた男　　　　　　　　　　　。

１〔　　　　　　　　　　　　　〕２〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

３〔　　　　　　　　　　　　　〕４〔　　　　　〕〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

問四 傍線部①とあるが、斉の人が楽正子春を呼ぶ目的はどのようなことか。三十字以で答えよ。〈10点〉

　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五 傍線部②について、

⑴書き下し文にせよ。〈５点〉

　　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（。」と。〕〕

⑵「其」の内容を明らかにして、現代語訳せよ。〈６点〉

　〔

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六 本文における楽正子春の説明として最も適当なものを選べ。〈８点〉

ア　たとえ偽物の讒鼎を本物だと言ったとしても、斉の人を騙すことができるとは思えないでいる。

イ　偽物の讒鼎を本物と主張せよと命じる君主の行為の愚かさを、臣下として忠告するべきか迷っている。

ウ　なぜ偽物の讒鼎を本物と主張することが魯の再興につながるのか、理解できないでいる。

エ　偽物の讒鼎を本物だと言うことは、自身が大切にしている信念に背く行為であると考えている。

　〔　　　〕

問七 次に挙げるものは、本文をもとに「王と臣下の関係」について話し合った生徒の会話である。空欄Ⅰ～Ⅲに当てはまるものとして最も適当なものをそれぞれ選べ。〈２点×３〉

生徒Ａ―この本文を読んで、王と臣下の関係のことが気になったから調べてみると、ある話があったよ。

生徒Ｂ―どんな話だったの。

生徒Ａ―という人物がいたんだ。弥子瑕は母が重病だと知り、王の車を勝手に使って母の見舞いに行ったんだけど、王は弥子瑕のことを孝行者だと許したんだ。

生徒Ｃ―弥子瑕は王に気に入られていたんだね。

生徒Ａ―そうなんだ。でも、ある時、王から罰を受けることがあったんだ。そのときに王は弥子瑕に対して、自分の車を無断で使ったことを蒸し返して責めたんだ。

生徒Ｂ―最初とは全く違う評価になったんだね。なぜだろう。

生徒Ａ―なぜこんな違いが出たのかは、次の【資料】を見るとわかるよ。

【資料】

　　弥　子　之　、　㆓於 ㆒也、　　前　之　所㆓–　、　　　　、愛　憎　之　変　也。　　愛㆓ 於　㆒、　智　　而　レ　、　憎㆓ 於　㆒、　智　不レ　、　　而　レ　。　　　談　論　之　、不レ ㆘ 愛　憎　之　㆒　　㆖　焉。 （『韓非子』）

（注）　愛憎之主＝「主之愛憎」と同義。

生徒Ｂ―この【資料】を見ると、弥子瑕への評価が変わった理由は　Ⅰ　ということになるね。

生徒Ｃ―そうだね。ところで、【資料】では教訓として「　Ⅱ　」といっているね。

生徒Ｂ―でも、本文では、楽正子春は　Ⅲ　。

生徒Ａ―そうなんだよ。楽正子春は【資料】での教訓とは違った態度を見せているんだ。楽正子春が王からどのように扱われたのか気になるから、次は、本文の続きを調べてみることにしよう。

Ⅰ　ア　王が別の臣下を信頼するようになったから

イ　王が弥子瑕の愚かさに気づいてしまったから

ウ　王の弥子瑕への親愛の情が憎悪へと変わったから

エ　弥子瑕が王にとって不都合な忠告をしたから

　　〔　　　〕

Ⅱ　ア　君主が嫌っているものを理解しないまま、意見してはならない

イ　君主のその時の気持ちを察して、進言しなければならない

ウ　君主の執っている政策を理解した上で、諫言しなければならない

エ　君主から十分な信頼を得ていなければ、忠告してはならない

〔　　　〕

Ⅲ　ア　王の反感を買うことを恐れている

イ　王の真意をはかりかねている

ウ　王の頼みを断るかどうか悩んでいる

エ　王の要望をきっぱりと断っている

〔　　　〕

【解答】

問一　斉／来／魯君／真

問二　㋐＝こう　㋑＝こたえて〈４点×２〉

問三　１＝どうして　２＝恥じないだろうか、いや恥じる

　　　３＝避けない　４＝なんと・ではないか〈２点×４〉

問四　信頼する楽正子春の言葉で、讒鼎が本物かどうか確かめること。（29字）〈９点〉

問五　⑴　胡ぞ其の真を以て往かざる（。」と。）〈５点〉

　　　⑵　どうして本物の讒鼎を持って行かないのですか、持って行ってはどうですか。〈６点〉

問六　エ〈８点〉

問七　Ⅰ＝ウ　Ⅱ＝イ　Ⅲ＝エ〈２点×３〉

【現代語訳】

斉が魯を討って（宝物の）讒鼎を要求した。魯はその偽物を持って行かせた。斉の人が言うには、「偽物だ。」と。魯の人が言うには、「本物だ。」と。(そこで)斉の人が言うには、「楽正子春を来させよ。私は子春に（意見を）聴くつもりだ。」と。魯の君主は、楽正子春に（本物だと言うように）頼んだ。楽正子春が言うには、「どうして本物（の讒鼎）を持って行かないのですか、持って行ってはどうですか。」と。君主が言うには、「私はこれ〔＝讒鼎〕を大切に思っているのだ。」と。(子春が)応えて言うには、「私〔＝(子春)〕もまた私の信念を大切にしているのです。」と。

【書き出し文】

をちてをむ。のをてかしむ。はく、「なり。」と。はく、「なり。」と。はく、「をしてらしめよ。ににかんとす。」と。、にふ。はく、「ぞのをてかざる。」と。はく、「をす。」と。へてはく、「ものをす。」と。

【資料】書き下し文

にのは、だにらずして、ものとせらるるをてして、るにをしは、のなり。ににるときは、ちりてをへ、にるときは、ちらず、せられてをふ。にのは、のをしてるにかざるべからず。

【資料】現代語訳

そうだとすると弥子瑕のふるまいが、最初と変わらなくて、しかし前には褒められたことで、後には罪をえたのは、（王からの）親愛の情が憎悪の気持ちへと変わったからだ。だから君主に親愛の情がある場合には、知恵は君主の心にかなって親しみが増していき、君主に憎悪の気持ちがある場合には、知恵は君主の心にかなわず、罪を着せられて疎ましさが増していく。だから人をいさめてさかんに議論する人は、君主の親愛の情と憎悪の気持ちを察してそれから話をしなければならない。

【補充問題】（＊行数は本書に対応）

問１　「吾将聴子。」（３行目）を、すべてひらがなで書き下せ。

問２　「請」（３行目）とあるが、魯君は楽正子春にどのようなことを「請」うたのか。二十五字以内で答えよ。

問３　「之」（５行目２字目）は何を指すか。最も適当なものを選べ。

ア　魯　　イ　讒鼎　　ウ　楽正子春　　エ　信

【補充問題解答】

問１　われまさにしにきかんとす（。」と。）

問２　魯が斉に渡した偽物の讒鼎を、本物であると言うこと。（25字）

問３　イ